

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日 調査実施の時間	平成 21年 12 月 26 日 開始 10 時 30 分 ~ 終了 15 時 30 分
訪問先事業所名 (都道府県)	まりホーム内海 (広島県)
評価調査員の氏名	氏 名 延平 和子 氏 名 羽原 高代
事業所側対応者	職 名 ホーム長 氏 名 波多野 茂紀 ヒアリングを行った職員数 (2)人

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1, 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3491500249	(評価機関で記入)
法人名	社会福祉法人 まり福祉会	
事業所名	まりホーム内海	
所在地	福山市内海町 イ2678 (電 話) 084-986-2255	
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと	
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201	
訪問調査日	平成 21 年 12 月 27 日	

【情報提供票より】 21 年 12 月 7日事業所記入

(1)組織概要

開設年月日	昭和平成 16 年 7 月 1 日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 15 人 非常勤 人 常勤換算 15 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (八百一円並立 お)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1000 円		

(4)利用者の概要(12 月 7 日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	1 名	要介護2	8 名
要介護3	4 名	要介護4	3 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.6 歳	最低 60 歳	最高 98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	常石医院・沼隈病院・黒瀬デンタルクリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成22年 1月30日

広い海や緑に囲まれ、穏やかに暮らせる環境にあり慣れ親しんだ土地でその人らしく生活されている。常に利用者の立場にたち、一人ひとりの尊厳を大切にした支援に心掛けている。地域とのふれあいも大切に協力体制が築かれていて行事等にもボランティアの方の協力が得られ地域と共に歩まれている。法人全体の研修も定期的実施し専門職としてのスキルアップに努められサービスの質の向上に活かしている。食事手作り料理で食べやすく工夫され楽しみのある食事となり、利用者からも喜ばれている。運営者が医療機関のため医療面においても安心できる事業所であり、職員も明るく活気のある事業所となっている。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の内容は職員間で内容を共有し運営推進会議の中でも議題とされ、全て改善にむけて取り組まれた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	評価の意義についてはより良いサービスに繋げることを目的とした内容であるということを全職員に周知し理解を得ている。項目ごとに職員の意見を集約し管理者が作成された。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	家族、地域住民(複数)、公民館館長、社会福祉協議会職員、地域包括支援センター、行政担当者等の参加で定期的開催されている。事業所の現状について報告をし参加者からの多くの意見をサービスの向上に活かす取り組みがされている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	利用開始時相談や苦情について遠慮なく言ってもらえるように説明をし、意見箱の設置もしている。年3回家族会を開催しそこで意見が出ることが多く、それらの意見や要望については職員で共有し運営に反映させている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	公民館行事、運動会等の地域行事に利用者とともに参加している。また文化祭には利用者の作品の展示もされている。老人会や地域の方々との交流についても活発に行われている。事業所主催の夏祭り等の行事には地域の方の参加もある。避難訓練にも地域住民が参加され密に連携が取れている。

2. 調査報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念とまりホーム内海の指針を基にし5項目を掲げられ実践している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月ミーティング時に理念と指針について唱和し職員で共有に努めている。また日々のケアにおいても理念に近づくよう個々意識を持って取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館行事、運動会等の地域行事に利用者とともに参加している。また文化祭には利用者の作品の展示もされている。老人会や地域の方々との交流についても活発に行われている。事業所主催の夏祭り等の行事には地域の方の参加もある。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義についてはより良いサービスに繋げることを目的とした内容で話をし、各職員から意見を集約し管理者が作成された。前回の外部評価の内容は職員間で内容を共有し運営推進会議の中でも議題とされ、改善にむけて取り組まれた。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域住民（複数）、公民館館長、社会福祉協議会職員、地域包括支援センター、行政担当者等の参加で定期的開催されている。現状報告を行い参加者からの意見も聞き取り、それらをサービスの向上に活かす取り組みがされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター主催の地域ケア会議に参加し顔見知りの関係づくりに努めている。ケースにより法人の本部長が行政担当者に関わることもある。		
4 . 理念を实践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便り「かけはし」を毎月作成し日頃の様子や行事、職員の紹介等について掲載し送付している。また家族の訪問時にも詳しくお知らせしている。金銭管理は訪問時収支報告をしサインをもっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用開始時相談や苦情について遠慮なく言ってもらえるように説明をし、意見箱の設置もしている。年3回家族会を開催しそこで意見が出ることが多い。それらの意見や要望については職員で共有し運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の状況を考慮した異動もあるが、利用者へのダメージに配慮した支援をしている。職員の異動後も交流があるため利用者の影響はほとんどない。		
5 . 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は積極的に参加するよう声かけをしている。内容は勉強会の中で周知している。内部研修は計画を立て定期的に勉強会を実施している。法人内の研修も月1回開催し出席している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議に参加することで情報提供の場となっている。同業者との交流も実施していく予定である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>情報提供を得、利用者の不安や心配を取り除くよう工夫をされ、家族と協力しながら徐々に馴染んでもらえるよう取り組み見守りや細やかに声かけで対応している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者との会話の中から昔の習慣やそれぞれの生活歴を聞きながら学ぶことがあり、お互いに支えあう関係が出来ている。利用者から元気をもらうような声かけや励ましてもらうなど支えあって暮らしている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>会話やケアの中で思いをくみ取るように努めている。買い物や外食の希望が多く、実現できるよう取り組んでいる。希望の表出が困難な方には表情や行動で把握し身体状況を考慮しながら出来るだけ希望に添うようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当者がアセスメントを基に課題や家族の意見を聞き、カンファレンスの中で職員の意見を取り入れケアマネジャーが作成し、ミーティングで職員に周知している。家族に承諾も得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>1週間ごと目標についての評価を行い、それを基に3カ月に1回見直しを行っている。状態変化があればその都度見直しをし、申し送りで周知している。</p>		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望により受診の支援など柔軟にしている。定期的にリハビリの相談の支援なども行っている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診が月2回ある。定期的に訪問看護の支援も得られる。歯科の往診も必要に応じて対応できる体制ができている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	指針を作成し個別に説明を行い同意も得られている。ガイドラインを作成し勉強会を実施し協力医療機関との連携も図られている。		
．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	笑顔で接し一人ひとりの尊厳を大切に声かけをしている。個人記録は取り扱いに配慮されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を優先し無理強いをしない支援に心掛け、一人ひとりのペースに沿った対応をしている。公平に声かけを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材について話をしながら職員とともに同じものを食べ楽しい時間となっている。個々の状態に合わせて下膳等されていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2～3回決められてはいるが、希望があれば毎日でも対応できる。拒否のある方には利用者同士や家族の協力も得ながら無理強いせず、足浴などで清潔保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を把握し、声かけを行い出来ること好きなこと(園芸、編み物、洗濯取り入れ)等してもらっている。楽しみごとは運動やゲーム、歌の会、フラワーアレンジ等好みに応じて行いハリのある生活となっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、日向ぼっこ等に日常的に行っている。四季を感じてもらえるような外出やまた外食や買い物など希望に添って戸外に出かけるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵はなく玄関は夜間のみ施錠されている。鈴をつけ把握ができ見守りを徹底している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施し地域の方も参加も得られ、地域との連携も強化されている。避難場所も周知している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	献立は法人内の管理栄養士によりバランスのとれたメニューとなっている。個々の身体状況に合わせた食事形態や摂取量の確保がされている。水分摂取量は1000CCから1500CCを目安に確保できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	リビングから海が眺められ季節の花も飾られ不快な音やにおいもなくタタミスペースもあり落ち着いた共有空間となっている。		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	利用者が使いやすく配置がされ調度品も馴染みのあるものが持ち込まれ居心地良く過ごされている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム まりホーム内海（ユニット A）

評価年月日 2009 年 12 月 26 日

記入年月日 2009 年 12 月 7 日

記入者 代表/管理者 氏名 波多野 茂紀

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
．理念に基づく運営			
1．理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の人とのふれあいを大切にし穏やかな暮らしができるよう理念に掲げている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月1回のミーティング時には、理念を唱和し、常に意識して取り組むようにしている。ケア方法に行き詰まった時も理念に立ち返るよう話し合っている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会、グループホーム運営推進会議、他行事など機会あるごとに「地域の中での暮らし」の理解と協力をお願いしている。	
2．地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	挨拶など、こちらより積極的に声をかけ、地域の事なども教えてもらっている。また、近所の人達に花・野菜・果物などを頂いたりしている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会、文化祭、運動会に参加。地域文化祭では生花、ぬり絵、手作りの作品等を出展し交流を深め、地域の清掃にも参加している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホーム運営推進会議にて、地域高齢者の情報や支援について話し合っている。地域包括センター、社会福祉協議会、公民館との地域高齢者の情報交換の場としても考えている。		グループホーム運営推進会議の中で、各機関とも協力し、また、情報交換しながら地域支援に取り組むことが出来ればと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の考え方、また、ガイドラインなど参考に実施する意義を理解し、日々のケアにつなげている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事及び日々の状況の報告、今後の予定、地域の事など理解と協力をお願いしたり、又それぞれについても意見を頂いている。		今回の評価についてもグループホーム運営推進会議で報告し、意見などを頂き、サービスの質の向上を図る。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議など通じ、担当者の意見を聞きながら取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	全職員が共通の認識となるよう、それぞれの制度について関係者と情報交換をし関係機関と連携しながらその人に必要な制度の活用について支援を行っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや勉強会で話し合ったり、又常に虐待がないようにとお互い注意し合いながら防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4．理念を实践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	十分な契約内容等の説明を行い、その上でお互いが納得し合意した上で手続きとしている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族会、意見箱の設置、日々の入居者の訴えに耳を傾け具体的支援に反映させている。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	家族面会時に報告や相談、必要なものには署名をもらっている。また、必要に応じて電話連絡をしている。毎月のグループホームだより「かけはし」を発行し、日々の暮らしぶりを紹介している。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	入居時に苦情の受け付けについて説明するとともに意見箱の設置、家族会や面会時に家族のご意見をだしてもらおうよう努めている。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	毎月1回のミーティング、2ヶ月に1回のホーム勉強会、又はホームミーティングを開催し、問題などある場合は、その都度話し合い、方向性を見出している。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	職員の意見を聞きながら柔軟に対応している。特に受診、行事の職員配置には気を配っている。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	馴染みの関係を大事に、異動の際には、勤務体制など考慮し配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 . 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に勉強会（１／月・１／２ヶ月）している。又、外部の研修にも積極的に参加。その内容については全職員に伝達している。		内部研修は、沼南会グループで各委員会があり、月１回出席している。ホームの研修は２ヶ月に１回行っている。外部研修は、職員の希望を優先し参加する機会を確保している。また、伝達講習会も行っている。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の関係機関のケア会議に参加したり、他のグループホームとの会議及び交流を通して研鑽している。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会などを行っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々に年間目標を掲げ、自己評価し、向上心を持つようにしている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	よく話を聞き、理解し、職員で共有しながら支援策を考えている。本人と家族の状況など相談の上、受けとめる努力をしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	説明やホームの見学の機会を設け、困り事や、不安などを受け止め、安心してもらえるよう努力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	まず、本人、家族の実情を聴き、その人の状態に沿った支援の説明。又は、他のサービスについても説明や紹介もしている。		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	家族と相談をし、開始時期は不安や心配を抱かないよう十分な話の時間をとったりし、注意を払い、見守っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	一緒に食事をし、洗濯物を畳んだり、テレビ、新聞などのニュースを共有しながら共に過ごしている。		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	来居時に報告、相談などしたり、一緒にお茶を飲みながら利用者との時間を持ってもらうようにしている。		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	来居しやすい雰囲気に気を配り、近況報告や支援の相談し本人の気持ちなどについてもお話ししている。		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	面会時に失礼のないように関係を尋ね、次回の面会などお願いしている。		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	共通の話題などで、仲の良い関係を築きながら、お互い助け合えるような場面作りにも工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居されても近況を聴いたり、介護の相談など受けている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中にその人の思いや関心に注意を払い取り組んでいる。困難な方については、表情や行動で、汲み取るようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、家族、本人から聞き取り又、毎日の暮らしの中で知った生活歴など把握しながら支援に活かしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々、毎日の生活のリズム、今の状態で出来る事、難しいことなどを把握しながら支援している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者を決め、アセスメントを作成し、本人の課題、家族の意見を加え、日々のなかで知りえた情報などをもとに、カンファレンスを行い、最終的にケアマネジャーがケアプランを作成している。また、ミーティングで話し合い意見交換しながら行っている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	フローシートで、項目ごとに問題をチェックし、ミーティングで話し合い、それを基に通常3ヶ月毎に見直しをしている。但し、状態に変化のある場合は、その都度見直し、現状に即したケアプランを作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フローシート・経過記録に実施事項や観察結果を記録し次回に活かすようにしている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望で、訪問診療、訪問看護、受診などの支援をしている。毎月、PT・OT・STにもホームでリハビリの相談支援を受けている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	公民館、学校、地域ボランティア、地域の人たちの協力を得ながら支援している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて関係機関と相談しながら支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	グループホーム運営推進会議にも参加してもらい情報など交換している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関での受診や訪問診療の支援が月2回あり、訪問看護の定期的な利用をしている。歯科の往診は、必要に応じて行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医院の専門医に随時相談受診を受けるよう支援する。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションと24時間契約している。協力医院の看護師にも相談しながら支援している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	随時、面会に行ったり、病院関係者及び家族とも連絡を取り合っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	個別にも重度化、終末期について話し合いを行い、それぞれの終末期ケアのあり方について、共通理解を図っている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入院時には、家族、医師を交えて、今後の対応、支援について検討している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	関係者間でしっかりとした情報交換を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1．その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々、言葉かけには注意を払っている。職員間でも注意しながら尊厳を大切にしている。個人情報の取り扱いにも意識をし検証している。		
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員の思う通りでなく、本人に希望を聴き、自分で決めてもらう。		
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を優先し、押しつけのない様、ひとりひとりのペースで日々を過ごせる為の支援を行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望があれば本人の行きつけの店に行っている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話を楽しみながら、職員と一緒に食事をしている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	特に制限のない人は、家族の方と相談し可能な限り、好きな物を購入してもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	定期的なトイレ誘導、おむつ交換を行っている。		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	週に2～3回入浴をしている。拒否をされる時は、無理に入浴はしないで、家族の方の協力も得ながら、足浴などで清潔保持を保っている。		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	本人のペースで横になって休んでもらったり、状態など考慮しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	生活歴を活かし、本人の好きな事や出来ることは、声かけをして行ってもらっている。(園芸、編物、洗濯、物干しなど)運動やゲームなどをし、メリハリの生活支援をしている。		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	管理ができる人には、小額だが所持をしてもらっている。管理が無理な方には、希望する時に、本人へ手渡ししている。		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	1日1回は、気分転換のため散歩や日向ぼっこをしている。また、ドライブなども楽しんでもらっている。		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	ドライブや地域の行事に参加するなど、出かける機会を作っている。季節に応じて、催し物の参加や誕生日の食事会、買い物などの支援もしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙の投函の支援をしている。携帯電話を使用されている方もおられる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	お客様として対応しており、お茶などを用意し入居者さんと共に過ごして頂いている。次回の訪問もお願いしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会の課題としても度々とりあげ、理解し、知識を深められるよう互いに注意を払いながら取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵はなく、夜間のみ防犯の為、玄関を施錠している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に本人の様子や所在を確認し見守っている。夜間は、定期的に巡回し見守っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状態に応じた物品の保管管理をしている。共用場所では危険なものは、手の届かない所に置いている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	救急処置（A E D）の勉強会、転倒防止委員会、防災訓練を通じ、事故防止に努めている。又、ヒヤリハット・インシデントレポートの作成により、職員間で話し合い予防・対応策を検討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会にて定期的に学習し訓練を行っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、年2回、災害・避難訓練を実施している。近隣の方たちにも協力をお願いし、訓練に参加して頂いている。避難場所も周知している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	その人のリスクについて、御家族とも話し合い。お互い理解のもと支援をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	起床、入浴時や日中の様子を観察、記録し、変化に気づいた時は、すぐに訪問看護師やかかりつけ医に相談し、協力医療機関に受診などで対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	効能、用法を医師や薬剤師から説明を受け理解し、症状の変化、状態について報告している。処方箋をすぐに確認できるよう個人カルテに入れ職員が把握できるようにしている。服薬時に、声だし確認し、手に渡し、飲み終わるまで確認をしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物、水分、運動に注意し、自然排便に心がけている。やむ得ない場合は、排便コントロールしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、個々の状況に応じた口腔ケアを見守り、介助し支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理士による栄養バランスのとれたメニュー表をもとに作り、Dr.の指示により、個々に応じた摂取量を摂って頂いている。又、ミキサー食や食べやすい工夫をし支援をしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	協力病院との連携や保健所の情報など、感染予防のマニュアルを参考に実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理には、必ず、熱処理を行い、調理器具など毎夜、消毒を行い衛生管理に努めている。食材は一括して購入しているので、搬入食材が明確である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には、テーブル、ベンチなど置き、いつでも雑談や日光浴ができるよう工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから海が眺められ明るく、不快な音や臭気もない。机に花を置き、又、壁には季節を取り入れた装飾品を飾り、季節を感じて生活して頂けるよう工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ソファや畳のコーナーがあり、自由に利用して頂いている。又、玄関脇のベンチやイスを利用されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、自宅にて使われていたテレビ、ソファ、家具など置かれ、又、壁には写真など飾り、自由にレイアウトされている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室内は、自動換気になっている。又、ホール内の温度、湿度などにも配慮し調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで、寝具は身体機能に合わせた物になっている。又、台所はIH調理器の為、安全に生活が送れるよう工夫されている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の居室前には表札が有り、又、トイレ、浴室の戸にも大きくわかりやすく表示している為、利用しやすく工夫している。		
87	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホーム入り口には、ばら公園が有り、ベランダには鉢を置き、畑には季節の野菜を植え、入居者と共に草を抜き、手入れをし、又、収穫を楽しんでいる。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の 2 / 3 くらいの
			利用者の 1 / 3 くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に 1 回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2 / 3 くらいが
			利用者の 1 / 3 くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2 / 3 くらいが
			利用者の 1 / 3 くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2 / 3 くらいが
			利用者の 1 / 3 くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2 / 3 くらいが
			利用者の 1 / 3 くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2 / 3 くらいが
			利用者の 1 / 3 くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の 2 / 3 くらいと
			家族の 1 / 3 くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

緑あふれる山々や眼下に広がる素晴らしい景観。近隣の方ともふれあいを大切にし、穏やかで落ち着いた生活を提供しています。毎月の便りでは、写真を中心に日常生活の様子を届けています。食事は、栄養士による献立と手作りの料理で高齢者にとって適量で食べやすい工夫をしています。毎月、法人全体で医療・ケア面の勉強会で介護職員は学習し専門職としてのスキルを高めています。週間フローシートで項目毎分類し、評価をし、職員間で情報を共有。サービスの質の向上に活かしています。

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム まりホーム内海（ユニット B）

評価年月日 2009 年 12 月 26 日

記入年月日 2009 年 12 月 7 日

記入者 代表/管理者 氏名 波多野 茂紀

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
．理念に基づく運営			
1．理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	穏やかな生活を送れるよう、いつも心のこもった支援が行えるよう理念としてあげている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	見える所に掲示し、ミーティングの時、全員で読み、常に意識して支援に取り組んでいる。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会、ホーム運営推進会議、行事など地域の中での暮らしを、地域の人と家族の方に理解と協力をお願いし取り組んでいる。	
2．地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	あいさつを心がけ、近隣の方とのコミュニケーションに心がけている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動、行事等にも参加したり、声をかけていただいている。交流を深めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホーム運営推進会議にて、情報や支援について話し合い、地域包括センター担当者、介護保険課との情報交換等に取り組んでいる。		グループホーム運営推進会議の中で、各機関とも協力し、また、情報交換しながら地域支援に取り組むことが出来ればと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、ガイドライン等を参考にし、理解し、評価を活かし、取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事、ホームでの状況、暮らし、地域との交流について報告し、意見を聞いたりして理解と協力のもと向上に活かしている。		今回の評価についてもグループホーム運営推進会議で報告し、意見などを頂き、サービスの質の向上を図る。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議等で担当者の意見を聞きながら取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	全職員が共通の認識となるよう、それぞれの制度について関係者と情報交換をし関係機関と連携しながらその人に必要な制度の活用について支援を行っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等に取り入れ、話し合ったり、日々、お互いに注意を払い防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4．理念を实践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	十分な契約内容等の説明を行い、その上でお互いが納得し合意した上で手続きとしている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族会、意見箱の設置し、入居者の訴えに耳を傾け十分理解をし、支援を行っている。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	面会時、家族等で確認していただき、個々にあわせた報告などしている。電話などでも報告している。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	意見、不満、苦情との意見箱設置。又、家族会や面会時に家族との話合いの場を設けている。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	毎月1回のミーティング。又、問題等がある時は、その都度話合い等を設けている。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	ホーム長、職員間で連絡を取り合い、その都度柔軟に対応をしている。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	馴染みの関係を大切にし、異動の際には、利用者への不安がないよう考慮し、配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 . 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に勉強会（１／月・１／２ヶ月）している。又、外部の研修にも積極的に参加。その内容については全職員に伝達している。		内部研修は、沼南会グループで各委員会があり、月１回出席している。ホームの研修は２ヶ月に１回行っている。外部研修は、職員の希望を優先し参加する機会を確保している。また、伝達講習会も行っている。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の関係機関のケア会議に参加したり、他のグループホームとの会議及び交流を通して研鑽している。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会をしたり、又、個々に食事会などしたりしている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々に年間目標を掲げ、自己評価し、向上心を持つようにしている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	話しやすい状況をつくり、ゆっくりと話を聴く。職員間で話し合い、共有しながら支援策を考えている。又、本人と家族の状況など相談しながら、機械作りをしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	話の中で不安など受けとめ、説明やホームの見学の機会を設けるなど、理解と、安心をしてもらう努力をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	まず、本人の実情を聴き、その人の状態に沿った支援の説明。又、他のサービスについても説明や紹介もしている。		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	家族と常に連絡を取り、開始時期は不安や心配を抱かないよう十分な話の時間をとるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	一緒に食事や洗濯物をたたんだり、お茶の時間に料理や昔話、懐かしい歌など教えてもらっている。		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	来居時、近況報告、相談などしている。又、利用者との時間を十分持っていただくなど家族と職員が一体になれるよう努力している。		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	来居の際、又、電話などで普段の様子をお伝えしたり、相談したりして、良い関係を築くようにしている。		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	面会時に失礼のないよう、ご関係を尋ねし、次回の面会や電話などお願いしている。		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	お互い助け合えるような場面作りを工夫している。 (共同制作、フラワーアレンジメント、おしゃれサロン、ぬり絵など一緒に歌を楽しんでいる。)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居されても近況を聴いたり、介護の相談など受けている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり、コミュニケーションをとり、できるだけ希望や意向が把握できるように努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴を本人や家族に聞き、経過は記録して把握している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝、夕のミーティングで一日の過ごし方や、心身状態などを把握してケアしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族に希望を聞き、その人にどんな支援が必要か、本人の情報を把握し、話し合いを行い、介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常3ヶ月毎に見直ししている。但し、状態に変化が生じた場合は、その都度見直ししている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、経過記録、フローシートに記入を行い見直しに活かしている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関による連携。訪問診療、訪問看護、受診など支援をしている。毎月、PT・OT・STにもホームでリハビリの相談支援を受けている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	公民館、学校、民生委員、地域ボランティア、地域の人たちの協力を得ながら支援している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて関係機関と相談しながら支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	グループホーム運営推進会議にも参加してもらい、又、個々にも相談したりしている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療、受診の支援を行い、家族とも情報交換を行い、納得と理解の上で支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医院の専門医に随時相談受診を受けるよう支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションと24時間契約。又、協力看護師にも相談したりして、健康管理の支援を行っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の場合、随時面会したり、病院関係者及び家族とも連絡を取り合っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族会や個別にも重度化、終末期のあり方について話し合いを行い、共通理解を計っている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族と医師と共に、今後の対応や支援について検討しながら行っている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居先、及び家族と話し合い、情報交換をしっかりと行い、ダメージを防ぐように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1．その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々、言葉かけには注意を払っている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々に応じた、声かけ、説明を行いながら、本人の希望を表せ、納得していただけるよう支援を行っている。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な範囲で、個々の生活を大切に、希望に近づけるよう支援を行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の望む物を一緒に買い物に行ったり、買ってきたりしている。理美容は、月 1 回来設してもらい行っている。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	音楽を流し、楽しく会話をしながら食事を摂っている。テーブルを拭いてもらったり、片づけを一緒にしたりしている。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の望む物を買ったり、パン屋さんが週 2 回来られるので、好みで買っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	その人の生活リズムを把握し、排泄のパターン、習慣を大切にしながら、排泄できるよう支援をしている。		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	週2～3回入浴ができるよう支援をしている。又、本人の希望、体調に合わせて柔軟に対応している。		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	個々の生活リズムを把握し、安心して休めるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	本人の好きな事や出来ることは、声かけをして行ってもらっている。(園芸、編物、洗濯、物干しなど)運動やゲームなどをし、メリハリのある生活支援をしている。		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	預り金として、預かっている。本人の希望があれば使えるようにしている。家族の了解を得ている。		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	天気の良い日は、玄関前のベンチに座ったり、散歩に出かけている。		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	家族と連絡を取りながら、機会を作り支援している。(買い物・行事・ドライブ)季節に応じて、催し物の参加や誕生日の食事会、買い物などの支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、相手先を確認し、電話の利用を支援し、又、手紙の投函を支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時は、居室、ホールなどでお茶を飲みながら、ゆっくりと過ごしていただけるよう考えている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしないケア」の勉強をし、具体的事例について学び、現場で意識して支援している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけず自由に人の出入りが出来るようにしている。夜間は、防犯上、玄関を施錠している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者のプライバシーに配慮しながら、所在や様子を随時確認し、把握するなか、安全に気を配っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状態に応じた物品の保管管理をしている。共用場所では危険なものは、手の届かない所に置いている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	救急処置（A E D）の勉強会、転倒防止委員会、防災訓練を通じ、事故防止に努めている。又、ヒヤリハット・インシデントレポートの作成により、職員間で話し合い予防・対応策を検討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会にて定期的に学習を行っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、年2回、災害・避難訓練を実施し、第一に利用者さんの安全を考えて訓練している。又、近隣の方たちにも協力をお願いし、訓練に参加して頂いている。避難場所も周知している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状態に応じ、その人のリスクについて、御家族へ相談し、対応策を実施している。(ポータブルトイレ、ベット、車椅子)		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック、顔色、行動の変化に注意している。症状の変化や異変があった場合は医療関係者に、直ぐ相談し、対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	効能、用法を医師や薬剤師から説明を受け理解し、症状の変化、状態について報告している。処方箋をすぐに確認できるよう薬文献表に入れ職員が把握できるようにしている。服薬時に、声だし確認し、手に渡し、飲み終わるまで確認をしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事、水分、運動に注意し、自然排便に心がけている。やむを得ない場合は、主治医に相談し、排便コントロールしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人ひとりにあった口腔ケアを見守り、介助の支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養管理士による献立、水分量も一人ひとりの状態や力に応じた支援を行い、摂取量も確認している。又、ミキサー食や食べやすい工夫をし支援をしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	協力病院と連携、又、福山市の感染症及び食中毒予防説明会に出席し、毎年新しい情報を参考に取り組んでいる。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は、グループ指定業者より一括して購入しているので、搬入食材が明確である。調理器具も毎夜、消毒し衛生管理に最新の注意を払っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	案内板や掲示物により、わかりやすく、また花壇、ベンチなど置き、出入りしやすいようにと考えている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間に植物、絵画、ピアノ、カラオケ。冬には、畳の間にコタツなど生活観を感じてもらうようにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ソファや畳の間、ベランダにイス、また、玄関脇にもイスを置き、思い思いに過ごせる場所としている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、家で使い慣れたタンスやイスなど、持って来て頂き、過ごしやすい様にしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく、換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	自動換気になっている。温度調整も体感に留意し、聞いたたりし、個々に合わせて調整している。又、加湿器も利用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能に合わせた寝具、一階で段差のないクッションフロアー、トイレの背もたれ、手すりなど設置している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	手洗いの表示、表札などでわかりやすくしている。又、レースのカーテン、すだれ等で強い光に対応している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	戸外にもイスを置き、植木の手入れ、日向ぼっこしながら鳥の声に耳を傾けのんびりと過ごしている。芝の庭、畑もあり活動に活かしている。又、ホールよりベランダに出て、鉢物の世話や屋外の空気に触れている。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の 2 / 3 くらいの
			利用者の 1 / 3 くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に 1 回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2 / 3 くらいが
			利用者の 1 / 3 くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2 / 3 くらいが
			利用者の 1 / 3 くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2 / 3 くらいが
			利用者の 1 / 3 くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2 / 3 くらいが
			利用者の 1 / 3 くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2 / 3 くらいが
			利用者の 1 / 3 くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の 2 / 3 くらいと
			家族の 1 / 3 くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

緑あふれる山々や眼下に広がる素晴らしい景観。近隣の方ともふれあいを大切にし、穏やかで落ち着いた生活を提供しています。毎月の便りでは、写真を中心に日常生活の様子を届けています。食事は、栄養士による献立と手作りの料理で高齢者にとって適量で食べやすい工夫をしています。毎月、法人全体で医療・ケア面の勉強会で介護職員は学習し専門職としてのスキルを高めています。週間フローシートで項目毎分類し、評価をし、職員間で情報を共有。サービスの質の向上に活かしています。